

畜産資源送別会

去る3月23日、今年度の畜産資源の送別会が研究室にて行われました。今年は3月に研究室の引越しがあったので、ちゃんと研究室で送別会ができるのか心配でしたが、引越し前よりも広いスペースで行うことができました。今年、研究室を去るのは長命さん、レニンさん、椎野君の3人です。3人も僕が入って来たときから在籍している人ばかり(椎野君は同時に入りました)で、とても名残惜しいです…。特に、長命さんとレニンさんはかなり長い間研究室におられたので、彼らが去ると研究室の雰囲気も変わるのではないのでしょうか。



送別会では、卒業する人に、アルバムと記念品を贈ったのですが、イベント係の竹内さんと中川さんが作ってくれたアルバムはとてもきれいで、皆喜んでいましたね。ご苦労様です！さらに、広岡先生からは長命さんとレニンさんに研究室初となる「永世



畜産資源分野院生」の称号が与えられました。これで、いつでも研究室に院生として帰って来れますね。料理のほうは、中川さんが研究で使っていたアグー豚、塚原さんの鹿児島土産の野生イノシシ肉をお鍋と焼き肉でいただきました。アグーは脂肪が柔らかく、イノシシ肉は全然臭みがなく、美味しかったです。料理だけでなく、お酒のほうも今回は豪華でした。塚原さんが森伊蔵を持ってきてくれたので、皆で少しずつ飲みました。芋焼酎の割りに、匂いが強くなく、味もすっきりしているので、ロックで飲むのがお勧めです。こんなに豪華な食事はお店では味わうことができないので、研究室で行うことが出来てよかったです。



今回の送別会には、畜産資源以外のメンバーも参加してくれました。生殖のツッキー、岡崎さん、生態機構の伊織ちゃん、栄養の服部君らが卒業生にお別れを告げに駆けつけてくれました。ありがとう！また、研究室で飲み会でもやりましょう。



(記者N)



目次:

～広岡先生の随筆～ ◎人生の中間発表	2
はくび会総会・送別会	3
一言一考⑬最終回	3
お店紹介②	3
昨年度の総評と今年度の抱負	4
学位取得しました	4
畑の掃除	4
日本畜産学会110回大会(日本大学編)	5
お勧め図書	5
お知らせ	6

暖かかった2月とは裏腹に『花冷え』という言葉がぴったりの3月でした。入学式前に散ってしまうのではないかと心配されていた桜ですが、ちゃんと季節をわかまえているかのように、開花を待っています。

研究室も心機一転、メンバーもたくさん増えて、新しい雰囲気になりそうです。

先日の日本畜産学会でお会いした名城大学の林先生からは、畜産資源から旅立った山羊達の近況を知らせていただきました。彼らも立派に実験のお役に立っているようでしたよ！新年度も初心を忘れず頑張りましょう♪

研究室引越し

3月上旬某日、研究室の引越しを行いました。今回の引越しで最後の場所に納めました。場所はE棟2Fと3F。足掛け3年間にわたる長～い改修工事も今回で終わり。一末の感慨深さと深いためいきと共に準備が進められました。さすがに引越し作業が3回目になると、皆さん手馴れていてとてもスムーズに進んだと思います。



←学生室1 大石先生と仲間達



←学生室2 この部屋に11人入ります。

当日も熊谷先生の指示のもとスムーズに流れました。これもチームワークの産物ですね。よかった。よかった。

引越し終了後は皆さんで恒例のお疲れ様会。皆様お疲れ様でした。新しい部屋は綺麗に使いましょね。ネバダ～。シャバダ～。

好評連載 広岡先生の随筆

①人生の中間発表



『子の曰く、吾れ、十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず。』(孔子・為政編)

気がつけばあつという間に半世紀を生きてしまった。中島敦の山月記の一文で、日々虎になっている時間が増えてゆく人物が「人生は何もしなければあまりにも長い、何かをするにはあまりにも短い」と述べるくだりがある。最近、この一文の重みを痛感することが多い。

以前にも述べたが、私が勉強に興味を持つようになったのは中学2年のころであった。それまでは、勉強には全く興味を持てなかったが、中学から始まった英語だけは頑張ろうと一念発起し、毎日予習復習をしていると成績がぐんぐん上がり、中学2、3年にはすべての教科に対して興味を持って勉強をするようになった。高校時代は、自分で言うのも変だが本当によく勉強をし、何とか京都大学に合格することができた。大学時代は、よい研究室と最高の師に恵まれ、またよい研究テーマに巡り合って、人並み以上の成果を得られたと考えている。

しかしながら、就職には非常に苦労し、30歳最後の月の10月1日に、やっと龍谷大学の経済学部で統計とコンピュータを教える専任講師として職を得ることができた。この時、やっと一人前になれたと思えた。今から考えても、この時に研究者・教育者として生き残れたことは奇跡的だと思っている。

龍谷大学での11年間は最も充実していたと思っている。座学が中心であった経済学部で、「手と足を動かすゼミ」をモットーにコンピュータとフィールド調査を中心としたゼミ教育を実践し、新しい風を吹き込んだ。私のゼミは、当時の学生たちに支持され、経済学部で一番の人気ゼミとなり、優秀な学生を集めて様々な研究に取り組み、その中のいくつかはテレビや新聞でも取り上げられた。私自身は、畜産学の研究を続け、1995年4月から1996年3月までの1年間にわたるオランダのワゲニンゲン大学での留学で行った研究は、その後、7本の論文として国際学会誌に掲載されることとなった。今振り返っても、この30歳代後半から40歳までで、自分の研究スタイルや方向性に迷いはなくなったと思っている。

2001年10月に京都大学の本研究室に42歳で着任することとなった。龍谷大学を去ることには、後ろ髪をひかれる思いがしたが、ずっと続けてきた自分の本職である畜産学の研究を学生に教育できることが魅力的と思い、京都大学からの誘いを受けることとした。龍谷大学を去る際に、私より少し年下の先生が、「廣岡先生の教育方針のDNAは残したい」と言ってくれたことが非常にうれしかった。彼は、いままフィールド調査を取り入れたゼミを実践し、多くのプロジェクトを成功させて大活躍をしている。

今、50歳を迎え、私の天命は畜産学の研究と学生の指導ではないかと強く感じている。この50年間、結局、研究を中心とした人生であったと思う。その間、研究に行き詰まったことも苦痛に感じたことはなく、そこそこの成果を上げられたのではないかと感じている。多くの人々が普通に持つ幸せの多くは犠牲にしてきたのかもしれないが、好きなことを職としてきた点では幸せだったと思っている。また、良い家族に恵まれ、大学では、よいスタッフ、信頼できる事務員、優秀な学生に恵まれた点では自分の運の良さに感謝している。残りの人生は、この研究室で、畜産の研究と後進の教育に全力を傾けたいと考えている。また、Nature、Scienceクラスの雑誌に自分の手で論文を投稿し、掲載されることをめざしたい。それがささやかな夢である。

広岡博之

はくび会総会・送別会

修士修了式後の午後3時から、毎年恒例のはくび会総会と送別会が行われました。



今年は会場が小さく(E-103)、やや詰め込み状態で行われました。総会では、現副会長の今市君(生殖)の司会進行で、昨年の事業紹介と会計報告、来年度の幹事紹介、来年度の事業計画が報告されました。来年度のはくび会会長は生殖の今井先生、副会長は同じく生殖の南先生と畜産資源の木村(知)君が任命されました。今年度の役員、幹事の皆様お疲れ様でした。来年度もソフトボール大会、NF祭など、はくび会の行事が大いに盛り上がるといいですね！

総会に続いて、修了生・卒業生の送別会が行われました。艶やかな着物姿や袴姿、毎年

楽しみのひとつです。今年は『修了生と卒業生からの旅立ちの言葉』コーナーが設けられ、木村君の進行で、各人の進路が巧みな話術(?)で披露されました。はくび会修了生のうち、博士課程に進学するのは畜産資源の竹内さん一人で、ちょっと寂しい感じですが、4年生から修士に進学する人が多いので、はくび会も充実しそうです。

また、はくび会の超有名な長命さんが、今年度をもって旅立つので寂しくなる…と思いきや、ご本人からソフトボール出場宣言が出て、一同大喜びでした。



今年も送別会は時間通り午後5時に終了、大量に余ったおつまみやお酒を持って、人の流れは畜産資源へ…続きは畜産資源の送別会で。(ようこ)

お店紹介②

普段、畜資のメンバーがお世話になっている&気に入っているお店の第2弾。

今回ご紹介するのは、東一条通のカフェ&レストラン(イタリア料理スペイン料理)“pepe”今年1月29日にオープンしたばかり



のお店です。先日たまたま通りかかって、「あれ、こんなところにこんなお店あったっけ？」チラッと中を覗いたら、素敵な感じに賑わっていたので、予定を変更して店内へ。お店の雰囲気は、ちょっと素敵で高級レストランと気軽なパールのちょうど中間という感じで、カウンターには骨付きパルマハム(プロシュート)が置かれ、カウンターの奥には、ワイン棚、オープンキッチンの隅にはドーム状の焼き釜(電気製ではなく、ちゃんと薪がくべられ炎が上っていました)があって、イタリア人と見られる外国人シェフがピザを投入していました。木曜

日の夜でしたが、ほぼ満席状態。しかも学生街なのに、学生の姿は見当たらず、とってもシックで落ち着いた雰囲気でした。

メニュー(夜)は、コース(3500円～)がありますが、アラカルトメニューも充実しています。イベリコ豚もあります。パエリア、ピザ、パスタともどれも予想をはるかに上回る美味しさでした。美味しいピザやパエリアを求めて三条～四条へ出かける機会が減りそうです。ちょっと懐に余裕のあるときは、ぜひお勧めの一軒ですよ☆ちなみにモーニングセット(650円)、ランチ(1000円～)もあります。



営業時間は7:00～22:00、定休日は毎週日曜日です。パーティー予約OK、駐車場もあります。住所:吉田牛ノ宮町8-5、電話番号(075)752-6131 (ようこ)

一言一考 ⑬

「霸道、王道、本道」

霸道は勝利の道、王道は不敗の道、本道は仁徳の道。研究は唯一で存在するものではなく、その世界感はずしも真実ではない。科学を含む研究は真実そのものを示すのではなく、真実を追究する行為そのものである。あらゆるものは環境との関わりによって存在する。従って、研究とは外部環境の人々のお陰により存在するものなのである。昨今では、霸道や王道がもてはやされているが、研究を志す人は真実の探究を心より楽しみ、本道を歩まれることを願いたい。今回は最終回。

「願わくば 花の下にて春死なん その望月の如月の頃」西行法師

(明太子)

先日、清水寺～祇園までの通りを灯す『花灯路』へ出かけました。夜桜にはまだ早かったのですが、いつもと違った風情が楽しめました。



(京都花灯路: 会期3月13日～22日)

昨年度の総評と今年度の抱負

【広岡先生】 今年度は、スタッフも上原さんを加えて4人となり、いよいよ自分の研究活動を再開しようとしたのであるが、1冊の本の編集と筆頭著者の論文2本の成果に終わってしまった。Animal Science Journal誌から総説の執筆を2年前に依頼されているが、なかなか書くモチベーションが湧かず、そのままになっている。原因はいろいろあるが、やはり年齢と逆まつ毛による気力と体力の衰えであろう。また、2度の研究室の移転があり、落ち着かない1年でもあった。

今年一番うれしかったことは、長命君が10倍以上の競争率の難関を勝ち抜いて、日本学術振興会の博士研究員(PD)に採用されたこととレニン君が博士論文を書き上げ、ホンジュラス農業大学の准教授に内定したことである。また、助教の大石先生が卒業生の姫野さんと結婚したことは、まことにめでたいことである。この3月で長命君とレニン君が研究室を卒業することで、畜産資源研究室の一つの時代が終わり、次の時代に突入した感が強い。

研究室の院生の諸君は、これまで通りに国内外の雑誌に論文を受理され、掲載されたことはすばらしいことである。今後も修士以上の学生は、ぜひ最低でも1本は自分の論文を筆頭著者として書き上げ、学術雑誌に未来永劫に名前を刻んでほしいものである。

来年度に向けて多少気がかりな点は、この半年間、仮移転のために研究室がばらばらになり、意思の疎通が難しくなってしまった点と、来年度は人数が大幅に増加するため、チームワークの再構築が必要になる点である。このような環境下では、個々人が切磋琢磨しつつも、お互いに相手を尊重し助け合う姿勢が必要で、そうすることで全員が成長し、ますます多くの成果をあげられるものと期待している。研究以外の雑用も厭わず、無理なくこなす能力を持つことが、若い間に研究職に就くためにも、また社会に出て生き抜くためにも不可欠で、ぜひこの種の能力も本研究室で学んでほしいと考えている。

これまでもGoat Bulletinでしばしば書いてきたが、「研究の女神」は必ず存在し、地道に勉学に努力し、見返りを期待せず、人を援助する者に微笑むものである。私もこのことを再認識しながら、頑張って教育・研究に励みたいと考えている。

【大石先生】 また1年が経ち、新年度になりました。月日が経つのは本当に早いものです。昨年度は畜産学教室70周年記念式典や全国山羊サミットin京都の開催もありましたが、何より、レニン君と田端君の2人が無事学位を取得しました。また長命博士が他大学へ異動することも決定しました。彼ら3人とは古くから研究室をともにしており、それぞれの道を進んでいる嬉しさと同時に徐々に離れてしまう寂しさも覚えます。他のメンバーでは、ネパールでの水牛肥育試験等を行っていた修士の椎野君が就職しましたが、彼ならどこでもWikipediaとともに楽しく働いていけるでしょう。

今年度は、新たに分野のメンバーとなる人が数多くいます。畜産資源学分野の研究テーマはもともと多岐に渡っていますが、今年度は大家族となったメンバーで、さらに様々な研究テーマに関心を持ち、かつ深く検討していければと思います。個人的には、耕作放棄地での放牧研究が2年目に入りましたが、近畿圏をはじめとした多くの共同研究者の方とともに、よりオリジナリティ溢れる「京大らしい(?)」研究を行なうことが出来ればと考えています。もちろん、ヤギの研究も忘れていませんよ♪



学位取得しました。

3月23日に学位を取得しました。5年間はあっという間のようで長かったなあというのが正直な感想です。博士号は研究者としての免許証。学士、修士ももちろんそれなりの感慨があったのですが、博士はやっぱり重たかったです。この5年間は、学問の知は無数の思考の屍を経て積み重ねたものであること、また、学問は人が一生をかけるに足る業ということを体得できたと思います。

総長から直接学位記を手渡された時に浮かんだ気持ちは「学問に対して誠実でいよう」という言葉でした。今後はこの気持ちを大切に、ひとりの研究者として自覚と責任を持って行動したいと思います。そして、学問を修める人間として、他の人にもその楽しさを伝えられる人間になりたいと思います。

改めて、5年間ご指導いただいた廣岡教授はじめ皆様のご指導とご協力に感謝します。今後ともよければご指導・お付き合いください。

畑の掃除

卒業式が終わった3月24日午後、動物系研究室共有の畑で、春に備えた掃除が行われました。昨年植えた苗の残渣や支柱を抜いて、半年間放置した雑草を鎌で起こし、畝を平らにならしてきました。



前日の送別会での呑み過ぎが応えたのか、はたまたWBCの決勝戦(日本-韓国)と重なったためか、参加人数は少なく、汗だくでの作業になりました。

畑を掘り起こしてみると、大きなミズズミや甲虫の幼虫など、たくさんのお友達が潜っていました。さすが無農薬畑です。ノビルがたくさん芽を出していたので、収穫し、茹でて酢味噌で美味しくいただきました♪

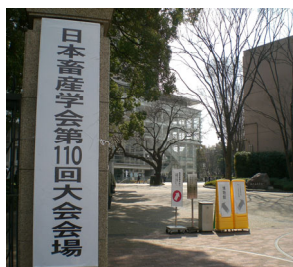
技官さんがトラクターをかけてくれるので、その後はまた「はくび会畑」として、お野菜や枝豆を植えたいですね！



(ようこ)

日本畜産学会110回大会(日本大学編)

3月27日から29日まで日本大学にて、日本畜産学会第110回大会が開催されました。まず、会場についてキャンパスを見渡してみると、その大きさと建物のお洒落な造りに驚きました。今まで参加した学会の会場では、一番良かったかも。個人的には、学校にモスバーガーが入っているのにも驚きました。食べてみましたが、一般の販売店よりも若干…でした。



今回の日本畜産学会での発表者は大石先生、長命さん、椎野君、西尾の4人で、塚原さんは山羊研究会で発表を行いました。今回の参加者は年齢層が高かった(M2以上)です…。そのためか、みんな発表は慣れたもので、あまり緊張している様子もなく、無事発表を終えていました。練習では、時間をオーバーしている人がいましたが、本番ではきっちりと時間を守っていたのはさすがです。また、長命さんは事前にスライドの間違いを発見し、はさみと

のりを駆使して、スライドを修復するという荒業を披露していました。でも、皆さん、くれぐれも真似ないように！

さて、学会といえば、飲み会が付き物です！今回は山羊研究会の後の飲み会に参加させていただくことになりました。山羊研究会自体には、そんなに所属している人の数は多くはないのですが、ほとんどの会員+αの人が参加するので、他の研究会の飲み会よりも参加人数は多いと思います。山羊を研究している人は繋がりが強いのだと改めて実感しました。



今回の学会は、発表に、飲み会に、観光にと楽しく参加させてもらいました。次回の秋の日本畜産学会は沖縄で開催されるそうなので、今から楽しみです。おっと、その前に発表できるような研究のネタを考えないと…。(記者N)

学会報告(番外編)



日本大学は藤沢にありますが、そこから少し離れたところに江ノ島という観光地があります。今回、学会に参加する傍ら、ちょこっと観光してきました。土日だったということもあり、江ノ島は観光客で溢れ返っていました。特産物は海に面していることで、いろんな魚介類があるのですが、特にシラスが有名で、島のあちらこちらにしらす丼を出している店が軒を連ねていました。とりあえず、そのうちの一軒に入り、名物の釜揚げしらす丼と生しらすを江ノ島の地ビールとともに頂きました。とっても美味しかったですよ！みなさんも江ノ島付近に行くことがあれば、是非食べてみてください。生しらすは季節ものなので、事前に調べておくことをお勧めします。

(記者N)



お勧め図書

『和牛道—極上を味わう!!—』

みかなぎ りか著

扶桑社2008/10/30 価格648(+税)円

ISBN: 9784594058135

昨年10月、島根県の農事組合法人松永牧場を調査させていただいた時、本書を役員の松永直行氏よりご紹介いただきました。もちろん直行氏がいる松永牧場の話題も掲載されています！

研究室に入ってしまうと、良い意味でも悪い意味でも専門的な研究に没頭し視野が狭くなる嫌があります。そうした意味でも本書を読まれることで、知識・関心の幅が大きく広がるものと思われます。当書は、大学の講義でも十分に興味をひくような内容です。また、畜産(ウ

シ)に興味のない方、研究室に入ってきたばかりの学生、研究者などその対象範囲は非常に広い本であります。

内容としては、昨今世間を賑わせている食品偽装問題、BSE問題に始まり、ウシの歴史、品種(血統)、飼料、枝肉組成、消費者心理…等々。特に、「ウシには不飽和脂肪酸やオレイン酸が豊富であり、非常に体に良い食べ物である」話は一読の価値あり！と思います。当書を読んで、和牛をおいしく食べましょう！また、彼氏や彼女との話題に事欠いたときには…当書の知識が必ずや役に立つでしょう。

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

Tel: (+81)-75-753-6363

Fax: (+81)-75-753-6373

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で
成り立っています。形式・文字数は問いません。
また、読者の方々からのご意見やお問合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし
送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今年度のゼミは、毎週火曜日に変更になりました。今月のゼミは

4月 7日(火)オリエンテーション 15:45~16:15

4月14日(火)柳・酒井 14:45~16:15

4月21日(火)荒木・石田(4回生演習用) 14:45~16:15

4月28日(火)木村(悠)・中川(靖)(4回生演習用) 14:45~16:15

の予定です。教室はいずれもE-103ですので、お間違いのないように
お願いいたします。急な変更等の連絡にご注意ください。 ゼミ係

研究室の動向

3月10日に研究室の本移転が完了し、学生室はE-303とE-307へ移
動しました。先生方の部屋と事務さんのお部屋も廊下を挟んで隣接して
いますので、卒業生・関係者の皆様、きれいになった畜産資源へ是非遊
びに来て下さい！なお、新年度には入り、新4年生4名と新修士1年生5
名(内留学生1名)が加わりました。新メンバーの紹介は、来月号から
本誌上で行う予定ですので、どうぞお楽しみに♪

今月のおみや



今月は、女子限定ホワイトデーのクッ
キーにケーキ、学会出張された皆さんか
らは横浜のおしゃれなラングドシャや江
ノ島のしらす煎餅、また南部せんべいな
どいただきました！ご馳走様です☆



2009年 4月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
3/29	30	31	4/1 木村・柳 体重測定Ⓞ	2	3	4
5	6	7	8 中川・スリタヤニ 体重測定Ⓞ	9	10	11
12	13	14	15 児嶋・酒井 体重測定Ⓞ	16	17	18
19	20	21	22 竹内・イクバル 体重測定Ⓞ	23	24	25
26	27	28	29 未定	30	5/1	2

編集後記 人付き合いは、自分を映す鏡だと教わったことがあります。農村開発調査手法(RRA)のロールプレイで、役人担当の人が高
圧的な態度を示すと、農民役の人たちは見事にそっぽをむきました。以降役人は、農民から本音を聞きだすことが出来なくなり、失った
信用を取り返すために予想以上の努力を強いられることになりました。モデレーターに重要なのは、相手を理解しようとする事、自分の考
えを押し付けないこと、嘘をつかないこと、言い訳をしないこと、相手の好ましいところを引き出すこと、自分を省みることだそうです。